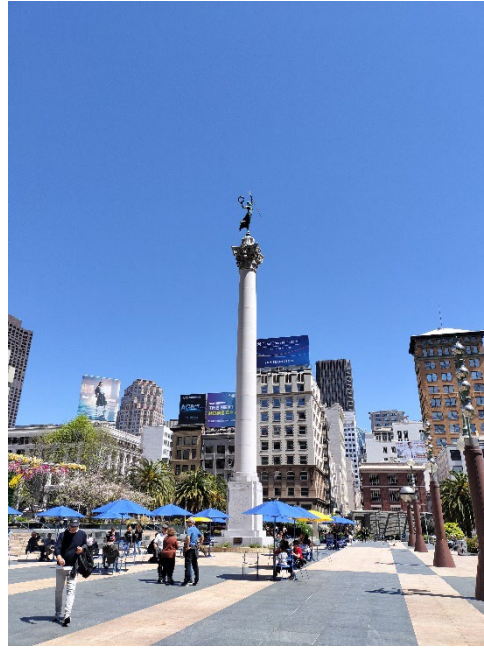


## PHYSOR2024 の参加に関して

東京都市大学大学院  
共同原子力専攻  
修士2年 篠原 知篤

本渡米は私にとっての初めての国際学会参加であるとともに、初めての海外渡航であった。さらに、私は英語が得意でないのだが始めは指導教員がついてきてくれることになっていたため、そこまで心配はしていなかった。しかし、直前で諸事情により一人で行くことになってしまい大変驚いた。そんな私でも海外経験のある研究室の友人に質問をしたり、インターネットで情報収集することで、どうにか一人で国際学会に参加してきたのでその記録を共有させていただく。

私は学会 2 日目の午後に「Reactivity Decrease by Assembling Fuel Assemblies in a Heavy Water-Cooled Reactor」というタイトルで発表した。発表当日の午前中は会場のすぐ近くにあるユニオンスクエアで原稿の確認をしっかりと行った。僕がこの国際学会で最も憂慮していたのは質疑応答である。英語で話すには私が知っている語彙の中から意図を説明する文章を組み立てるだけでよいが、話を聞く際には相手が選んだ単語を理解できなければならない。ましてや、国際学会の質疑応答では研究の内容について話したこともない外国人から英語で質問を受けて英語で返すため緊張感があった。実際に私はうまく英語を聞き取ることができず、事前をお願いしていた原子力機構の方に大変ご助力いただいた。この場を借りてお礼申し上げたい。別の国際学会に参加する機会があれば自力でやり切れるよう勉学に励もうと思った。



ユニオンスクエア。中心には米西戦争の勝利を記念する女神像が屹立する。



発表風景。質疑応答でご助力くださった原子力機構の方に撮っていただいた。

私は新型炉設計関連の話を中心にほかの発表者の話を聞いた。特にペブルベッド炉の設計セッションが2件、マイクロ炉が2件、溶融塩炉が1件あり、これらの炉系の人気が高まっていることが分かる。Kairos Power では実際に溶融塩のループを建設して実験をする計画が進んでおり、日本とは違う活気を感じることができた。アメリカは新しいアイデアが示されたのちに投資家から資金をもらい実物を作るまでが他国の追従を許さないほど迅速だと感じた。

初めての海外であったが、事前準備のおかげか生活面はおおむね順調に進んだ。この渡米で唯一失敗だったのはホテル選びである。私は日本国内の安宿の旅行に慣れていたこともあって、サンフランシスコでも相当安いホテルをとって見たところ、治安の悪い地域のすぐ隣で入口は嚴重な鉄格子が入っているようなところだった。ホテルに入るには玄関横のボタンを長押しするとエントランスがこちらを確認し、ブザーが鳴っている間は鍵が開いて入れるようになる仕組みだった。初めはこの仕組みが分からず、ホテルの人をいら立たせてしまった。その上、チェックインに必要な英語を僕がうまく聞き取れなかったためホテルのおじさんにだいぶ語気強めにまくしたてられて焦った。ただ、様々な人種が共生しており英語が通じるのが当たり前というアメリカ文化の洗礼を受けることができ、後から思うと面白い経験になった。



私が宿泊したホテルの外観。入り口には黒い嚴重な鉄格子がはまっている。この付近の建物には鉄格子が目立った。



宿泊したホテルの廊下。壁紙の柄や天井から下がる EXIT の看板の雰囲気アメリカらしいと感じる。



せっかく日本から約 8000km 以上離れたサンフランシスコまで来たので、国際学会への参加だけでなく観光もしてきた。有名な観光地としてアルカトラズ島やゴールデンゲートブリッジなどがあり、北側の海に面した地域に偏在している。これらの観光地が見られるフィッシャーマンズワーフへは PHYSOR の会場から 2.9km ほどあったが、せっくなので街並みを見ながら歩いて行った。中華街を縦断するルートで歩いてみたが、メインストリートから外れた通りだったこともあってか、静かで人が少なくどこか寂しい感じが印象的だった。横浜の中華街は観光地といった雰囲気だが、サンフランシスコの中華街は本当にアジア系の住民が生活するための地域といった意味合いが強いのだろうと思う。



中華街にあった小鳥屋。残念ながらこれ以外の中華街の写真がなかった。私の家ではオカメインコを飼っているため、小鳥には心惹かれて写真を撮っていたようだ。



中華街を抜けてフィッシャーマンズワーフへ下る坂道。行く先にはかすかに海の水面が見え、期待が高まった。

フィッシャーマンズワーフは観覧車や様々な商業施設があって活気があった。ビーチもあって様々な人が海水浴を楽しんでおり、遠くにはゴールデンゲートブリッジがかすんで見えた。写真からもわかるように橋が奥の山と同じくらい巨大に見える。アメリカは橋までサイズが大きくてすごいと感動し、帰国してから研究室の友人に「ゴールデンゲートブリッジは山より大きい」と伝えたところ「遠近法でそう見えるだけだろう」と批判をされてしまった。しかし、橋の奥に見える Slacker Hill は標高 282m、Hawk Hill は 281m であり、ゴールデンゲートブリッジは主塔の高さが 227m であるため意外といい勝負なのであった。



臨海地域にあった観覧車。これに関しては横浜の観覧車のほうが大きいため、勝利を感じる。



ビーチから見えたゴールデンゲートブリッジ。後ろに見える山と比較すると橋の大きさがよくわかる。



アルカトラズ島。島には昔の刑務所があり、海流の影響で脱獄が困難であるらしい。

最終日にサンフランシスコ市街から国際空港まで移動する際、私はアメリカの街並みや空気感を直接体験したかったため、あえてバスを使うことにした。しかし、事前に調べたバス停の場所に行くと近距離に2つのバス停があり、どちらで待てばいいのかが分からずに困った。そこで、近くにいたアメリカ人のおばあちゃんに質問したところ高速鉄道で行くのをおすすめされたが、どうしてもバスで行きたいと説明したところ、どちらのバス停か一緒に調べてバスの乗り方まで丁寧に教えてくれた。別れ際に「なぜバスがいいのか」と聞かれたので「街を見たいから」と答えたら理解できないと言いたげに呆れたような顔をされてしまった。この反応は私が祖母と話しているときにもよくされる反応であったことを思い出し、アメリカでも日本でもおばあちゃんの反応は変わらないのだなと感心した。同時に、私はアメリカでもそういう顔をされるような行動をしているのだと気づき、国によって態度を変えたりしないことを少し誇らしくも思った。



まだいくつか写真があるので簡単な説明を付けて文末にまとめておく。今回の国際学会に参加して、研究面でも勉強になったことがたくさんあったが、アメリカの考え方や人々の生活のような面でも新しいことを理解できた。これは日本に留まっていたら気づかなかったことだと思うのでいい体験をさせていただいたと思う。様々な方にやさしくご指導いただきまして、深くお礼申し上げます。



国際学会の会場で振舞われたカットフルーツ。個人的には日本で食べるフルーツのほうが好みだった。



会場となったヒルトンホテルのラウンジから見える景色。様々な高層ビルがそびえる発展した都市だと分かる。



マンホールから漏れる湯気を遮って進むトロリーバス。サンフランシスコには熱供給があるのか街なかで湯気が立っていることがある。



サンフランシスコで有名なケーブルカー。坂の街だからか市内ではケーブルカーをよく見かける。